中学生がレジ袋教室

只見町教委 新聞紙使い取り組み

只見町教委の「中学生による新聞レジ袋教室」は一、二の両日、町内二カ所で開かれた。只見中生が地球環境の保全を願い、国連の持続可能な開発目標（SDGs＝エスディージーズ）の精神を広める取り組みが町民の共感を呼んでいる。

ふくしま SDGs

町内外の主婦らに指導

一日は明和振興センターで開催した。町内外の主婦ら十人が参加し、浅野琳（りん）さん、梁取ななこさん、山内ひかりさんの三年生三人が講師を務めた。

三人は新聞紙を折ってのり付けし、箱型を作って持ち手を付ける工程を一時間半にわたり丁寧に指導した。郡山市から参加した主婦大坂裕子さんは「若い子からエネルギーをもらった。南郷トマトを入れて知人にプレゼントしたい」と喜んでいた。二日は朝日振興センターで開いた。



只見中生から新聞レジ袋の作り方を教わる参加者（左）

ジュニアチャレンジで最高賞

只見中は福島民報社主催の「第二回小中学生まちづくり大賞（ふくしまジュニアチャレンジ）」で、新聞レジ袋を作り、地域とのコミュニケーションを広げる取り組みが評価され、最高賞のグランプリに輝いた。

新聞レジ袋の作製は、海辺のプラスチックごみを減らそうと二〇一九年に始まった。海を意識した学びを通し、地球規模の水循環を考え、山間部に位置する郷土への愛情を育む狙いがある。